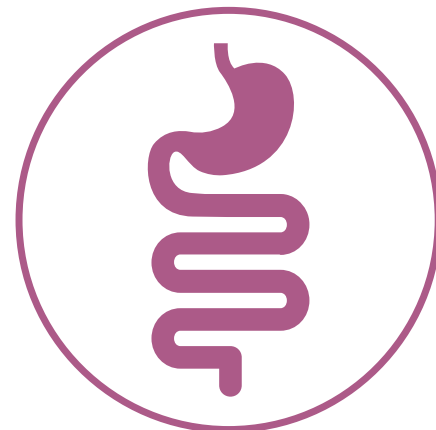




消化器系疾患

## 猫の急性胃腸症



突然の嘔吐や下痢、食事量の乱れ（異食症）は、猫が獣医師を受診する際によくある理由です。このような場合、一般的には胃腸（GI）粘膜の炎症が想定されますが、病理組織学的に確認されていないため、胃腸炎ではなく、急性胃腸症という表現が適切です。

猫の急性胃腸症の一般的な原因としては、細菌、ウイルス、寄生虫または原虫による感染症、食事の不摂生や急激な食事の変化、毛玉、毒物の摂取、および急性食物不耐症が考えられます。急性嘔吐や下痢は、膵臓、肝臓、腎臓、神経疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病性ケトアシドーシス、尿路閉塞などの全身疾患の二次性症状として発症する場合があります。臨床症状は多くの場合、原因が特定されないまま、自然にあるいは対症療法によって消失します。重症あるいは長期化した場合には、基礎疾患の特定と管理が必要となることが多いです。

急性胃腸症の猫の栄養管理の目標は、猫の栄養要件を満たし、消化管粘膜への刺激を最小限に抑え、消化管分泌物を減らし、胃および腸の正常な運動をサポートし、胃食道逆流および嘔吐のリスクを低減する食事を提供することです。

### キーメッセージ

- 生命に危険のない急性胃腸症の猫には、嘔吐の重症度と頻度を下げ、誤嚥性肺炎のリスクを減らし、体液の損失を最小限に抑え、不快感を減らすために、短期間（12～24時間）食事を控えることが一般的に推奨されます。
- 長期間の絶食（48時間以上）は、腸粘膜の萎縮、腸機能の回復の遅れ、栄養失調や肥満の猫における腸内細菌の異常や肝リピドーシスなどの問題の発生につながるため、避ける必要があります。
- 早期経腸栄養法（下痢中の栄養法）は、他の動物の急性下痢の研究で、腸の機能を維持するのに役立つことが示されています。
- 安静時エネルギー要求量（RER）の25～33%のカロリーを1日3～6回に分けて与えると、腸管粘膜の回復を最適化し、忍容性に応じて増加させることができます。

（次のページに続く）

## キーメッセージ (続き)

- 急性胃腸症の猫は、激しい嘔吐や下痢によって水分や電解質が過剰に失われると、生命に危険な脱水を起こす危険性があります。
  - 嘔吐のない軽度の水分不足の猫は、経口水分摂取や皮下水分投与で管理することができます。中等度から重度の脱水症状の場合は、静脈内輸液と電解質補給を行う必要があります。
  - 嘔吐が治まり、電解質バランスが回復してきたら、数時間おきに少量の水を提供することができます。十分な水分補給を確保するために水分の摂取を監視する必要があります。
- 栄養の正常な消化吸収が損なわれることが多いので、消化の良い食事を選ぶ必要があります。嗜好性が高く、消化吸収に優れた高タンパク質の配合が猫に適しています。
  - 犬とは対照的に、猫では食事脂肪が胃排出を遅らせることはないため、消化管症状のある猫の管理では通常、脂肪制限食は必要ありません。
  - 少量の食事を頻繁に与える (1日 3~6食) ことで、胃の膨張を最小限に抑え、胃酸の分泌を抑え、胃の排出を促進させることができます。また、嘔吐や下痢などの胃腸の有害反応を最小限に抑え、栄養吸収を向上させることができます。
  - ウェットフードやドライフードに温かい水を加えて水分量を増やすと、嗜好性を高めながら体液の損失を補うことができます。
  - 嘔吐や下痢を起こさずに少量の餌を食べられるようになったら、通常の食事スケジュールに戻るまで、数日間かけて食事の量を増やし、1日の回数を減らすことができます。
  - 胃腸炎が治まれば、5-7日間かけて徐々に普段の食事に戻すことができます。

## 追加のリソース

Batchelor, D. J., Devauchelle, P., Elliott, J., Elwood, C. M., Freiche, V., Gualtieri, M., Hall, E. J., Den Hertog, E., Neiger, R., Peeters, D., Roura, X., Savary-Bataille, K., & German, A. J. (2013). Mechanisms, causes, investigation and management of vomiting disorders in cats: A literature review. *Journal of Feline Medicine and Surgery*, 15(4), 237–265. doi: 10.1177/1098612X12473466

Chandler, M. (2013). Dietary management of gastrointestinal disease. *Compendium: Continuing Education for Veterinarians*, 35(6), E1–E3.

Davenport, D. J., & Remillard, R. L. (2010). Acute gastroenteritis and enteritis. In M. S. Hand, C. D. Thatcher, R. L. Remillard, P. Roudebush, & B. J. Novotny (Eds.), *Small animal clinical nutrition* (5th ed., pp. 1053–1063). Mark Morris Institute.

Lawrence, Y., & Lidbury, J. (2015). Symptomatic management of primary acute gastroenteritis. *Today's Veterinary Practice*, 5(6), 46–52.

Saker, K. E. (2010). Gastroenteritis/vomiting – feline. In *Nestlé Purina PetCare handbook of canine and feline clinical nutrition* (pp. 60–61). Nestlé Purina PetCare Company.

Zoran, D. L. (2017). Nutritional management of gastrointestinal disease. In S. J. Ettinger, E. C. Feldman & E. Côté (Eds.), *Textbook of veterinary internal medicine: Diseases of the dog and the cat* (8th ed., pp. 1892–1899). Elsevier.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。